

C24c 聞き取り調査による新城新蔵資料の収集

株本訓久 (武庫川女子大学)

本発表の目的は筆者がこれまで取り組んできた新城新蔵(1873-1938)の天体物理学における業績に関する科学史的研究の遂行において、聞き取り調査による資料収集が果たした役割について報告することにある。新城新蔵は1918年に京都帝国大学理科大学(現京都大学理学部)に創設された宇宙物理学講座(後に宇宙物理学科)の主任教授として講座の運営に当たると共に、天体物理学の研究及び現代天文学の知識を基に中国古代天文学史の研究にも取り組み、中国天文学の独自発展説を提唱したことで知られている。これまで新城の天文学研究に関する科学史的研究は、彼の中国天文学史研究を中心に行なわれており、天体物理学の業績に関する研究は、新城の生涯及び活動に関する伝記的研究において言及される程度でしかなかった。そこで筆者は、新城の天体物理学における業績を調査することで、彼が日本の現代天文学の形成過程において果たした役割を明らかにするための研究に取り組んできた。研究を遂行する上で用いた資料は、新城の研究論文及び著作、そして荒木俊馬、藪内清ら宇宙物理学科において新城に指導を受けた人物が著した新城の伝記的研究である。それらに加え、藪内清及び荒木雄豪(荒木俊馬の子息であり、新城の孫)ら、新城と直接関わりのあった人物からの聞き取り調査も実施した。聞き取り調査からは、文献資料では得られない貴重な証言を数多く得ることができた。今回本発表では、聞き取り調査によって得られた内容について報告すると共に、明治期以降の日本における天文学の科学史的研究のための資料収集方法に関するいくつかの提言をしたい。